

失処理

2015/9/28

失とは…射を行う場合、過って失策すること。弦切れ、弓の落下、筈こぼれなど。

☆失をしたときには畏まり慎む気持ちを持って動作することが肝要。

他の人に配慮して素早く処理する。

失が複数起きた場合は弓→矢→弦の順に行うのが原則。

失の三原則

- ・時、所、位に応じ、礼に即した所作で
- ・他に迷惑をかけないように手早く速やかに処理し
- ・射位に復して脇正面に向かって恐縮の意を表す＝揖をする

1、弓を取り落した場合

執弓の姿勢に戻る。

弓に近い方の足に片方の足を寄せて跪坐する。

弓手で握りを持ち腰骨に拳を戻す。

坐ったまま射位へ復し、揖をする。

(遠くに落ちた場合は、まず弓の近くまで歩行する。)

2、弦切れの場合

① 甲矢のとき

執弓の姿勢に戻る。

切れた弦の方に足を寄せ跪坐する。

矢を弓手に持ち直し、弓の下から弦の中央付近を妻手でとり弓手の親指以外の

4指に巻きつける。巻いた弦を抜き、弓手の親指で持つ。

矢を妻手に持ち直す。

坐ったまま射位に復する。

弓と切れた弦を介添え（または進行係）に渡す。

弓を受け取ったら生かして揖をする。

※弦を手に巻く動作の直前に弓を渡す場合もある。（円滑に進行を行う為に）

その場合も同じように乙矢を弓手に持ち直すが、この時弓手は矢のみを持つ

ことになる。その後の動作は同じ。

② 乙矢のとき

矢を持ち直す動作以外①と同様。

③ 屋外に飛んだ場合

取る必要はないが、弓の届く範囲にあるときは、適当の位置まで歩行し（屋外には出ない）一度跪坐して弓の末弭で引き寄せてとる。2,3度弓で引き寄せても、とれないときはそのまま退いて射位に復する。

- ・弦を張りかえてもらい、自分のもとに弓が返ってくるまで跪坐で待機する。このとき、手を差し出さず、差し出された弓の握りが左手の所に来たら受け取る。
- ・弦を渡さない場合は、懐に入れるか帯に挟み、邪魔にならないようにする。
- ・弦を切った射手の後ろの射手は、矢の処理が終わるまで待つ。
- ・弦が真ん中で切れ二本になって落ちた場合、近い方から拾って二本とも拾う。
- ・弦を手に巻いているときは弦を見ているもよいが、その他では原則に則って目線には注意する。

3、筈こぼれの場合（比較的起こりやすい）

- ・矢番えが完了し、一度妻手を腰に当ててから後に筈こぼれした矢は矢とみなす。
- ・競技の場合は当たらぬ矢と同様に記録される。
- ・審査では初段、弍段のみ射直しが認められる。

<初段・弍段>

① 甲矢の時

執弓の姿勢に戻り、立ったまま矢を持ち替えて乙矢を引く。

引いたら矢に近い方の足に片方の足を寄せて跪坐する。遠ければ歩行してから跪坐する。

弓の下から妻手で矢の射付け節を持ち（一度で持てない場合は近くに引き寄せてから持つ）、射位に復する。

生かしてから揖をして待つ。

- ・筈こぼれをした射手の後ろの人は、矢の処理が終わるまで待つ。揖＝弦音

② 乙矢の時

執弓の姿勢に戻る。①と同様に矢を持ち、揖をしたら跪坐の状態ですぐ矢を番えて引く。

- ・筈こぼれをした射手の後ろの人は、引き終わるまで待つ。

<参段以上>

① 甲矢の時

執弓の姿勢に戻る。

矢に近い方の足に片方の足を寄せて跪坐する。遠ければ歩行してから跪坐する。

乙矢を弓手に持ち直す。

弓の下から妻手で矢の射付け節を持ち（一度で持てない場合は近くに引き寄せてから持つ）弓手に持ち直し、再び妻手に乙矢とともに持ち直す。

坐ったまま射位に復し、揖をする。

甲矢を右膝の前に置く。

② 乙矢の時

矢を持ち直す動作以外、①と同様。

ここまで矢の処理について書いてきたが、矢は起こさないのがまず第一である。

仕掛け（弦の矢をつがえる部分）の確認や取り掛けの練習など、日ごろから意識を持って審査に臨んで下さい。